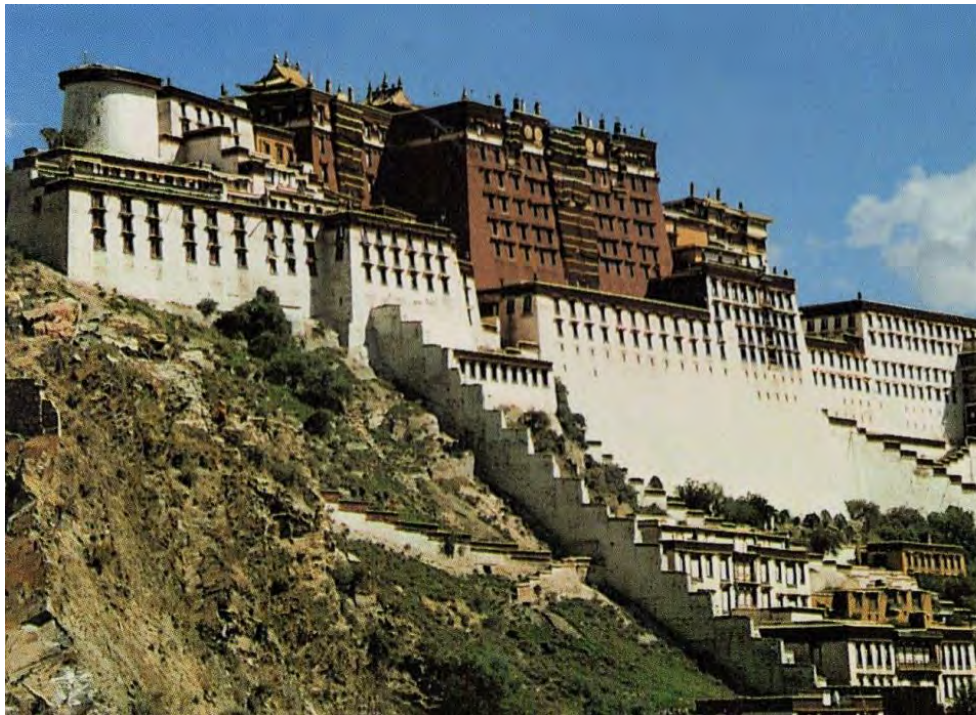


◎ チベット旅行記

2021, 12, 23 渡邊 晴雄



1, 始めに

*チベット旅行の計画

2, チベットの歴史と仏教文化

(1) チベットの歴史

(2) チベットの仏教文化

3, チベットへの旅

① 成都

・パンダ繁育基地

・杜甫草堂

・武侯祠

・四川省共青团との夕食会

② 拉薩 (ラサ)

・ポタラ宮 ・ジョカン寺

・セラ寺 ・ノル布林カ

・デプン寺

3, あとがき

*チベット現状の理解

1、始めに



*チベット旅行への挑戦

- 沢山の旅をして来た。
しかし今回のチベットでは、これまでの旅とかなり異なった経験をする事になった。
- 『Seven Years in Tibet』という映画は、チベットへの興味を掻き立てた。
- チベット高原は平均高度が4,000m、高山病の不安はあったが、正にカール・ブッセの詩『山のあなた』を彷彿させる場所。
- 旅の時季は、“経堂に籠って修行をしていた僧侶にヨーグルトを供する『シュエトン祭り』に合わせた。そこでは、多くの巡礼者が集まって来て、“大タンカの開帳とオペラを観る事ができる。
- 高校時代の同級生を誘い、厳しい旅に挑戦した。

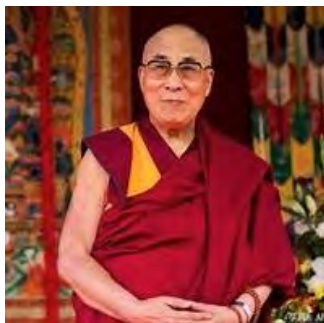


ーチベット国旗(雪山獅子旗)

2、チベットの歴史と仏教文化

1)、チベットの歴史

- * 620年代、吐蕃国王ソンツェン・ガンボが国を統一し、強国になった。
- * 幾多の戦いで国は激しく変り、今は中国のチベット自治区となっている。
- * ここでは、17世紀以降に限定して、主な動きを見て行く。



- 1617 ダライ・ラマ五世が政宗一致の統治
- 1876頃 イギリス、ロシア、清 が チベットで暗躍
- 1903 英との戦闘で ダライ・ラマはモンゴルへ亡命
- 1947 チベット政府が独立国家を表明
- 1951 中国軍(共産党)がチベット全土を制圧
- 1956 チベット動乱
宗教を排撃、土地の没収、漢族の大量移植等
- 1959 ダライ・ラマ14世、インドで亡命政府樹立
- 1966 文化大革命で紅衛兵が激しい破壊、略奪を行った。
- 1976 毛沢東の死去で宗教が幾らか認められた。
- 1989 胡耀邦が死去、『天安門事件』勃発
- 1989 ダライ・ラマ14世【ノーベル平和賞】を受賞し
オスロで演説
**「チベットの独立を放棄し高度な自治を要求。
武力に依らない平和的解決を主張。」**

—— 中国はこれを受け入れなかった。

2)、 チベットへの仏教文化



① 仏教の伝来

吐蕃国王ソントツエンガンボは唐の文成公主を妃に迎えた。妃は仏教信者で高山を越え、釈迦牟尼像と僧侶を伴って来た。ネパールから嫁いで来たティツン王女と協力しジョカン寺を建設。王も仏教信者になり、僧をインドへ送り、後期密教を学ばせた。

② チベット仏教の教え 六道輪廻

全ての生物は輪廻転生する。肉体は滅んでも魂は永遠に継続。人は、死んだら、行って来た行為により六道輪廻する。
神、人間、非神、地獄、餓鬼、畜生、



③ 転生 活仏制度

『菩薩は解脱しても、他者を救うために輪廻して、現生に姿を現す』と信じられ、転生活仏制度が生まれた。

- ・ダライ・ラマ ー 観音菩薩の化身とされている。宗教と政治の両面での最高指導者
- ・パンチエン・ラマ ー 阿弥陀如来の化身とされている。ダライ・ラマに次ぐ重要な存在



④ チベット族の信仰習慣

チベット族は熱心な仏教信者で、ダライ・ラマを敬愛し、厳しい作法を遵守。

・ 五体投地

両手、両足を地面に投げ伏して仏を礼拝する。熱心な巡礼は、寺だけでなく投地を続ける。巡礼者の『幸せな来世を願い、五体投地を行いながら進む気迫』に圧倒された。



・ マニ車

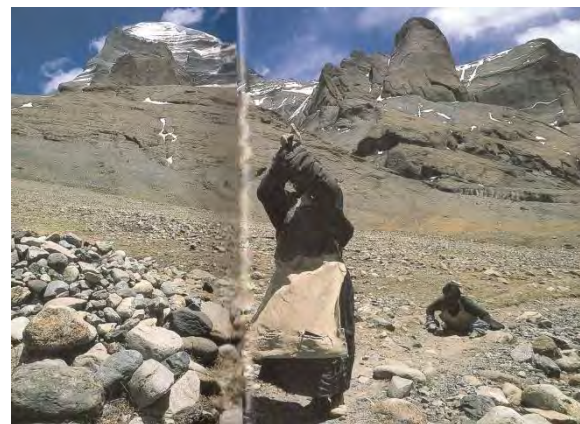
円筒形で中に経典が収められている。マニ車を回すと同じ量の経典を唱えた事と同じ功德があると言われている。チベット仏教の呪文(オン・マニ・ペメフン等)を唱えながら歩く。



*** 荒涼とした荒野を巡礼は、祈りながら必死に目的地へ向う。
時には親子で、時には五体投地をしながら、**

夢枕 獏、 『西蔵回廊』より

写真撮影は 佐藤 秀明



3, チベットへの旅

1)、 成都

四川省とは宜賓市、雅安市での植林活動を通じて、交流していた。
チベットへ飛び立つ出発点なので、一日を過ごした。

① 成都パンダ繁育研究基地

絶滅危機動物のジャイアントパンダの保護と繁殖研究の為に設立された。

ここでは観光客に子パンダを抱かせてくれるサービスがあった。

料金は当時2,000円。“わー高い”と言ったら、“決して高くないよ”と係員から言い返えされた。

女性の参加者全員がパンダを抱っこした。

最近ネットで調べたら、料金は 13,000円に跳ね上がっていた。



② 杜甫草堂

唐の大詩人『杜甫』は、759年 安史の乱 で成都に非難した。
 高校での漢文の授業(諸橋先生)を思い出しながら、時を過ごした。



| | | | | | | | |
|-----------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|------------------------------|-----------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 渾 欲 不 勝 簪 | 白 頭 搔 更 短 | 家 書 抵 萬 金 | 烽 火 連 三 月 | 恨 別 鳥 驚 心 | 感 時 花 濺 淚 | 城 春 草 木 深 | 國 破 山 河 在 |
| 渾べて 欲レ 不レ 勝レ 簪ニ | 白頭 搔ケバ 更ニ 短ク | 家書 抵ニ 万金ニ | 烽火 連ニ 三月ニ | 恨レ 別レ 鳥ニモ 驚カス 心ヲ | 感レ 時ハ 花ニモ 濺ギ 涙ヲ | 城 春ニシテ 草木 深シ | 國 破レテ 山河 在リ |
| 渾べて 簪に勝へざらんと欲す | 白頭 搔けば更に短く | 家書 万金に抵たる | 烽火 三月に連なり | 別れを恨んでは 鳥にも心を驚かす | 時に感じては 花にも涙を濺ぎ | 城 春にして 草木 深し | 國 破れて 山河 在り |

③ 武侯祠

三国志で有名な 天才軍師 諸葛孔明の祠堂

赤壁で囲まれており、君主の劉備を祀った劉備殿が併合されている。



少年の頃、吉川英治の 三国志 に夢中だった。
人生で役に立った幾つかの言葉が、思い出される。

- 三顧の礼
- 天下三分の計
- 赤壁の戦い
- 蜀の経営
- 泣いて馬謖を斬る
- 秋風 五丈原
- 死せる孔明
生ける仲達を走らす



④ 四川省共青团 との交流



- 小渕基金による日中植林活動を、親しく共同で行っていた 呉 旭 さんが、我々を夕食会に招待してくれた。
- 呉さんはエリートで、当時は四川省共青团の副主席。その後 雅安市 の市長に昇進された。
- 呉さん とは2002年に北京で開催された植林フォーラムで、偶然隣席に並んでいた事が契機だった。
- 我々は協力して植林事業を進めたが、彼女からの初めての問い掛けは、『Do you speak English?』 だった。
- この夜の花椒が効いた四川料理は、特別美味しかった。

⑤ 拉薩（ラサ）へ飛ぶ



*** 眼下に5,000m級の山脈を見下ろし
標高500mの成都から、標高3,650m
のラサへ飛ぶ。**

**ラサ空港では、現地のガイドが迎えに
出ており、旅の安全を願って、白い
ストールを全員の首に巻いてくれた。**

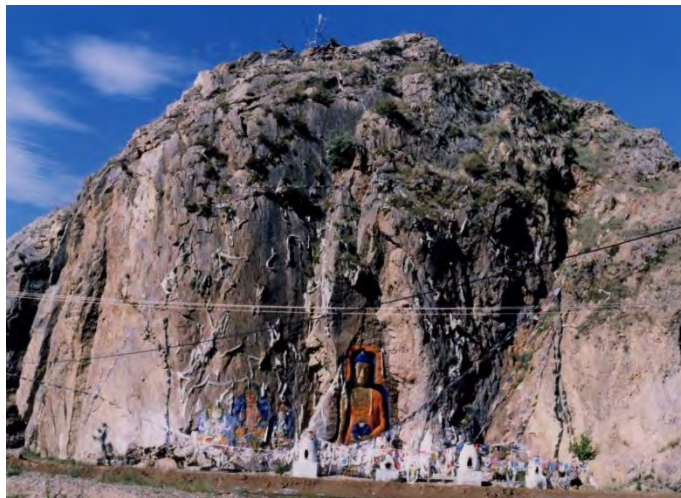
*** その甲斐なく、全員が頭痛と悪心に
悩まされ、ホテルに到着した後
酸素枕を抱えてベッドに横たわら
ざるを得なかった。**

*** 又、禁じられていた酒を飲んだ人は、
更にひどい苦しみを味わう事になった。**

- ⑥ 空港からラサ市内へ
空港からラサ市内までは100km、バスで2時間だった。



- * ヤルツァンポ川
4,000mの高地に、こんな大河が
流れている事に驚いた。
遙かインド洋に注いでいる。



- * 摩崖仏
カラフルに彩色された仏が、我々を
迎えていた。

2)、 拉薩 (ラサ)

① ボタラ宮

壮大で威圧感がある。

1649年に政教両面の権力を握ったダライ・ラマ五世が白宮を完成させた。白宮はダライ・ラマの住居であると同時に、政治を行う場所、紅宮は靈塔等の宗教部分。 ボタラとは観音菩薩の住む靈山の意である。

高さ117m、東西300m、南北270m の建築群で、1994年世界文化遺産に登録された。



白宮



- * 紅宮金頂
黄金色に輝いている
歴代 ダライ・ラマの宝塔



- * 多くの巡礼達



② ジョカン(大昭寺)

世界遺産に登録されている。
ジョカンの中心は、文成公主が
唐より持参した釈迦牟尼像で、
人の背丈より大きく、宝石が
散りばめてあり、金色に輝いて
いる。
正門は巡礼者が五体投地をする
場所で、その石畳は摩滅し光って
いる。



- * ジョカンのシンボルは、金色臥鹿
格式が一番高い寺である。
- * 紅衛兵が襲撃してきた時、周恩来は
人民解放軍を使い、これを防いだ。



- ③ 八角街
ジョカンを取り囲む形で、土産物店が立ち並んでいる。
マニ車を回しながら、お祈りを唱えながら、コルラ(時計回りに回る)する人が多い。

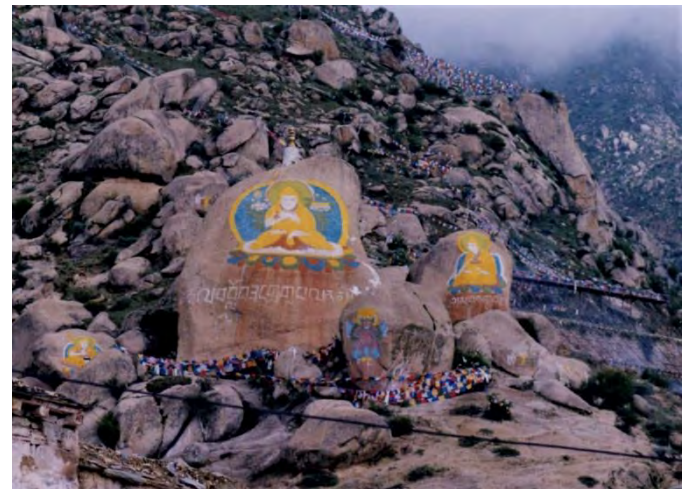


④ チベット・ショウ
勇ましいチベット族のショウは、楽しかった。



⑤ セラ寺

1419年創建の大寺院
最盛期には5,500人の僧が修行に励んでいた。1959年のチベット動乱の時多数の僧侶は脱出し、南インドのマイソールに伽藍を建設した。
1980年代に僧院組織が再建されて活動が再開された。
シュエトン祭りで大タンカが開帳される。



* 大タンカの開帳

多くの巡礼者が遠方からもやって来る。

護摩が焚かれ護符が宙を飛ぶ。

“次の世も人間として生まれ、良い生活に恵まれる事を祈る” 読経が始まる。





***入場受付の少女**

可愛らしい少女が居て、写真を撮った。



***河口慧海**

僧、仏教学者、探検家

日本、中国の漢語事典に疑問を持ち、
仏陀本来の意味の分かる書物を求め、
鎖国状態のチベットに中国人を装い入国。
セラ寺で学んだ。

『西蔵旅行記』を書いた。

* セラ寺での修行僧と巡礼

- 微動だにせず祈り続ける修道僧



- マニ車を回し、唱えながら、歩く



- 子供連れの巡礼者も多い



⑦ ノル布林カ

1775年に建設された夏の離宮

1959年人民解放軍がラサに入った

時の、ダライ・ラマ14世脱出の舞台。

シュエトン祭りの時、チベタン・オペラ
が開催される。



⑧ デブン寺

チベット最大の寺で最盛期には15,000人の修行僧が居た。

文化大革命で伽藍は破壊され、多くの僧侶達は殺害、拘束、追放された。

寺院組織と僧侶の殆どは亡命し、南インド カルナータカ州のムンゴットの居留地に本殿、僧坊を建設し、5,000人を越える僧が活動している。

チベットでは、修行の場を取り戻せていなくて、巡礼、観光地への対応だけとなっている。



3, あとがき

デプン寺を最後に、チベット旅行を終えた。

旅は、楽しかった。

チベットは昔強国だったが、封建農奴制で官僚、貴族、上級僧侶が、殆どの耕地、牧場、家畜を所有していた。中国共産軍がチベットを支配し、国も封建農奴制も消滅した。

そして、民族の魂の自由も失われたままである。

悲しみの中でチベット族の苦勞が今も続いている事が感じられた。



* チベットの現状(政・教)理解の章

- ① 中国との関係
 - 1951 中国共産党が中国を建国し、チベットを制圧 17条協定を締結(70年経過)
ダライ・ラマ14世は、“これは脅迫と銃剣によるもの”で無効と主張
 - 1959 ダライ・ラマ14世は、インドへ亡命しチベット亡命政府を設立
 - 1980 ダライ・ラマ14世は、独立ではなく、高度の自治による“中道路線”を主張
 - 1980 中国は“中道路線”は、“憲法、法律に合致せず、チベット族を含む中国人民の利益に反する”として拒否。
- ② 最近の両国の主張
 - チベット亡命政府
首相に選ばれたペンパ・ツェリンは、中国との対話を求め、国際社会の支援に期待
 - 中国
経済発展を齎すことで、信任を得る戦略を継続
70年間に、インフラ整備で27兆6千億円を使い市民生活を改善した。
一人当りの所得が70年で400倍になった。
- ③ 今後の問題
 - ダライ・ラマ14世の後継者問題
“輪廻転生”の考えに基づき、後継者を探す方法に、中国が同意するか？
 - チベットからインド等へ逃れた難民が、チベットから離れすぎてしまっている。

Another Story 【胡耀邦】

もし胡耀邦が力を発揮出来ていたら、チベットの歴史は、変わっていただろう？

- 胡耀邦は鄧小平の弟分で、共産党主席に選出された。
- 1980年、チベットを視察しその惨憺たる有様に落涙し、チベット政策の失敗と共産党の責任を表明した。
- 政治犯の釈放、チベット語教育の解禁、信教の自由、僧院の再建に着手させ、外国人旅行者にも開放した。然し1985年、彼の政治改革は、保守派の巻き返りで、棚上げにされ1987年に降格させられた。
- 鄧小平は胡耀邦に後を継がせたかったが、批判された。
- 1989年の政治局会議の後、心筋梗塞で倒れ死去。
- 1989年6月4日天安門事件が起きた。
胡耀邦の死がきっかけで、民主化を求めて集結した学生中心のデモ隊に対し、軍隊が武力行使し多くの死者が出た。
- 胡耀邦は親日の政治家で中曽根さんと親密だった。山崎豊子さんの『大地の子』の取材に協力した。
- 天安門事件では、私の仕事にも影響が出た。

